

環境にやさしいミカンハダニの防除に取り組んでいます

【ミカンハダニ防除の問題】

ミカンハダニは薬剤抵抗性（農薬に対する耐性）が発達しやすく、特に施設カンキツではこの傾向が強く、既に一部の薬剤については防除効果の低下が認められています（右表）。

表 ミカンハダニ薬剤感受性検定結果（杵築市施設カンキツ調査分）

薬剤名	①	②	③	④
	補正殺卵殺幼虫率			
A	58	100	84	95
B	97	100	76	85
C	5	83	0	11
D	50	74	75	91
E	100	100	100	100
F	100	95	99	93
G	100	100	51	98
H	11	54	36	17
I	37	46	3	37

※値が80%以下は感受性低下とする  
※①～④は異なるハウスで調査

【スワルスキーカブリダニとは…】

ミカンハダニを食べて密度を減らす天敵生物のことで、薬剤抵抗性の発達した個体にも高い効果があります。

これをパックに入れた「スワルスキープラス」は、殺ダニ剤に代わる防除資材として現地に導入されています。

また、スワルスキーカブリダニを化学農薬や環境変化の影響から保護すると同時に、増殖して長期間放出できるようにした簡易型組立資材「スワルバンカー」が新たに開発され、より安定した効果が期待されています。

そこで、現地で既に導入されている「スワルスキープラス」と新たに開発された「スワルバンカー」について、防除効果の比較試験を行いました。

【研究のポイント】



スワルスキーカブリダニ



スワルスキープラス

効果



スワルバンカー

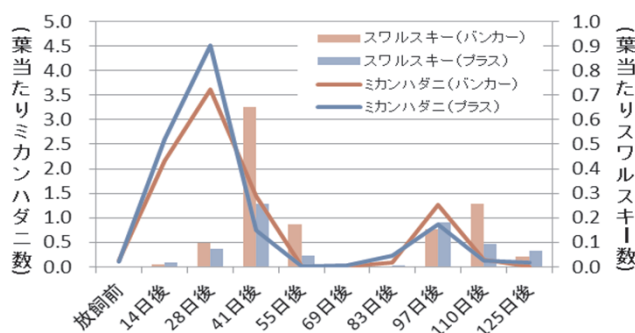
中身は…  
産卵用基質  
（産卵に適した場所）  
＋  
ポリマー剤  
（過湿剤）  
＋  
スワルスキー  
（パック製剤）

【方法】

- ・満開2週間後に「スワルバンカー」（対照区は「スワルスキープラス」）を設置。
- ・設置後、14日間隔でミカンハダニ雌成虫、スワルスキーカブリダニ成虫数を調査。

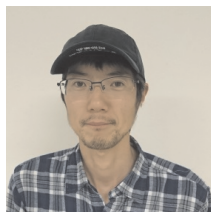
【結果】

- ・スワルバンカーは、対照区と同等の効果がみられました。また、設置後から収穫までの期間、殺ダニ剤の使用回数を抑えることができました。
- ・天敵の放出量は、対照区に比べ増える傾向がみられました。
- ・次年度以降は、設置個数を減らした試験などを実施し、コスト削減につなげられるかなど検討していく予定です。



【研究の成果】

【生産者の声】



杵築市 岩崎さん

効果の高い殺ダニ剤が減りつつあるなか、天敵資材の導入により、ミカンハダニの発生抑制のほか、防除回数の削減にもつながっており、作業の負担軽減になっています。今後も工夫しながら活用していきたいと思えます。

【連絡先】

担当： 農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム  
TEL： 0978-72-0407  
住所： 国東市国東町小原4402